

『MM教育物語～八戸市における社会実装に向けた長い道のり～』

【特定非営利活動法人まちもびデザイン 事務局長 伊地知 恭右

(国土交通省東北運輸局 地域公共交通東北仕事人)】

MM教育の技術論については、論文等が多数あるので、ここでは、MM教育の普及・浸透について様子を簡単な物語風にご紹介したいと思います。ある物語の共有があらたな物語につながることを祈念して。

青森県八戸市における小学校でのMM教育は、平成25年度に始まりました。八戸市地域公共交通会議（事務局：八戸市都市整備部都市政策課）における路線バス利用促進事業の一環として、出前教室をコンサルタントに委託する、というスタイル。市内各校に出前教室の実施概要と希望調書を配布して年間5校程度を目安に実施。受託者のコンサルタントはMM教育の経験者だったので、先生・児童の反応もまずまずでした。もちろん問題はありません。補助金を活用していたために、継続性に課題があったこと、バス事業者の協力が「実車体験用の車両を用意する」に留まっていたこと、何より、学校側はあくまでも受け身…。

地道な活動を続けて4～5年が経過した頃、少しずつ雰囲気が変わってきます。まず、小学校側から（希望調査と関係なく）実施希望の問い合わせがくるようになりました。出前教室を経験した先生方が増え、異動した先の学校でもやってほしいという先生も現れてきました。内容についても、座学だけの1時限、社会見学等を交えた実車体験を含めた4時限といったプログラムを基本としていたところ、4日間（1時限+1時限+3時限+1時限）の段階的な学習&発表プログラムを自発的に提案してくる学校がでてきました。継続してきただけで、面的な広がりや学習内容の深化がうまれたのです。

実施主体、八戸市地域公共交通会議における変化もありました。当初は「手間がかかる割に対象が限定的だし、何より小学生はバス利用のターゲットではないだろう」という空気もあったのですが、児童の反応を見るにつけ、3年目辺りから「このような事業こそ行政が実施すべき」という認識に至ります。そして平成30年度からは、今後の事業の継続性を担保するという意味も込めて、国の補助金ではなく、自治体の単費を確保し、MM教育の実績を有する地元NPO（当法人）に委託するという形式にシフトしました。

そして、令和元年度。ようやく、本当によろしくエコモ財団さんの自治体支援事業を活用させていただき、3年間じっくりと「MM教育の社会実装」に向けて取り組めることになりました。八戸において目指す社会実装とは、学校教育に内部化されること。つまり先生方がご自身でMM教育を主体的に展開していくことです。これまでの地道な6年間、地道に普及・発展を遂げてきた物語が新たなステージに入ります。その経過・成果については、JCOMM等でご報告させていただきたいと思います。